

新しい学びの形「プロフェッショナルセミナー」 各界のトップランナーが学生の能力を引き出します！



(学生たちが作成した雑誌サンプル)

大学での学びのベースは少人数の学生で構成されるゼミナールです。ゼミナールでは平均で6人の学生を1人の教員が担当し、個々の学生の特性を伸ばす教育を行っています。

来年度からは大学の外で活躍している方々をゼミナールの講師としてお招きする「プロフェッショナルセミナー」が本格始動。各界のトップランナーから門外不出の「極意」を学びます。

例えば、囲碁・将棋のプロ棋士から勝つために必要な「論理的思考力」を学んだり、ファッション雑誌のエディターから「本質を見抜く(見出しを作成する)力」を学んだり、プロの作家から取材対象の本音を引き出す「聴く力」を学んだりします。

プロフェッショナルセミナーは学生たちに今まで触れたことのない新しい世界との接点をもたらすだけでなく、各界で培われた「極意」を学ぶことで、社会で輝くための力(実務IQ)を育むことをその目標としています。

「ザ！鉄腕！DASH！！」インターンシップの募集開始 テレビ製作の現場で「社会で輝く力」を磨きます



日本テレビの人気番組「ザ！鉄腕！DASH！！」の新企画「新宿DASH」では、本学の本館(写真)屋上がベース基地として利用されています。

この度、番組制作会社である株式会社日企様のご厚意により、「ザ！鉄腕！DASH！！」におけるアシスタントディレクターの職業体験ができるインターンシップ生を募集しました。説明会には50人近くの学生が参加し、「生き物を扱う仕事なので気を遣う」「番組制作の仕事は思った以上に地味」といった番組スタッフの皆さんの説明を熱心に聞き入っていました。

職業体験は8月スタート。選考された学生たちはテレビ番組アシスタントディレクター補助業務として、ロケ前の準備(備品搬入、備品購入、調査など)、撮影補助、定点観測カメラや屋上農園のチェックといった作業を担当します。学生たちの活躍にご期待下さい！

女子卓球部がインカレで3位に！

本学の強化クラブ「女子卓球部」は7月7日～9日に行われた全日本大学総合選手権・団体の部(インカレ)に出場。決勝トーナメントでは関西の強豪(同志社大)や中部の強豪(愛知工業大)を次々に撃破する快進撃を見せました。準決勝で早稲田大学に敗れたものの、見事3位に入賞しました！



鳥取・和歌山の活性化にチャレンジ
経営学の知識を地方創生に活かす

カミサカ活性化プロジェクト始動！
経営学の知識を地元活性化に活かす

アーティストプロモーションに挑戦
「理論」と「実践」の両輪で「イベント力」を身に付ける！



鳥取・和歌山の活性化にチャレンジ

経営学の知識を地方創生に活かす

東京富士大学が力を入れている実践的な教育の一つが、課題解決型学習（Problem Based Learning）です。これは現実が発生している課題の解決に取り組むことを通じて、日頃の学習内容を深く掘り下げることを目指す学びです。本学では、地元商店街や地元企業と連携し「地元地域の活性化」に取り組む一方で、地元東京から遠く離れた地方にも目を向け、「地方創生」という新たな課題にも取り組んでいます。今回は、東京から離れた二つの地方自治体との連携事業についてご紹介します。

■日野町魅力化プロジェクト

2016年度から参加しているのが鳥取県日野町の「日野町魅力化プロジェクト」です。昨年度、本学の企業ビジネス研究同好会が日野町を訪問し、産業・観光・食・住について調査を行い、他大学の学生たちとも協力しながら、日野町の魅力を高めるためのビジネス・アイデアを練り上げ、報告しました。労働力不足解消に向け、町の情報発信を活性化するための「情報化の推進」と観光客増を狙った「ひまわり畑の迷路」を提案したところ、日野町の皆さんにアイデアを高く評価していただき、実現される運びになりました。今年度も日野町での調査と改善提案を実施予定で、企業ビジネス研究同好会と高橋ゼミナールの学生が合同で、その準備に取り組んでいます。

■橋本市インターカレッジ・コンペティション

もう一つは、和歌山県橋本市の「インターカレッジ・コンペティション」です。橋本市のこのプロジェクトには今年度から参加することが決定し、企業ビジネス研究同好会のメンバーを中心に取り組んでいます。こちらは関西圏の大学が多く参加するビジネス・アイデアのコンテストです。橋本市は、世界遺産でもある高野山の玄関口にあり、ヘラ鮎の釣竿など、観光資源の多い地域です。学生たちは、経営学の知識を活かして観光客を誘致するための提案を行い、「コンペで優勝したい！」と意気込んでいます。

これら連携プログラムは、教室での学びが現実的な課題とどのように結びついているかを知る、大変貴重な学びの機会です。学生たちが経営学の力を使って地方創生に貢献する様子は今後本誌でお伝えしますので、続報にご期待下さい。



カミサカ活性化プロジェクト始動！

経営学の知識を地元活性化に活かす

■地元商店街と共に地域を活性化！

本学では今年度から、新宿区と連携して地元商店会の活性化事業をスタートすることになりました。今回は学生も参加する地元活性化プロジェクトについてご紹介します。

高田馬場にある本学に隣接するのは、さかえ通り商店街と宮田商店街です。小さな商店街でありながら、一日 10,000 人を超える人が行き交うこれらの商店街は、老舗の和風居酒屋をはじめ、インド、ミャンマー、中国料理などの飲食店を中心に、昼夜を問わず世界の台所を楽しむことができます。しかし、商店街全体の活性化には多くの課題があるのも事実です。日本全国の商店街で、経営者の高齢化、後継者不足、空き店舗、等々が問題となっていますし、都会の商店街においてもそれぞれ固有の問題を抱えています。

■「カミサカ」活性化が始動

これら問題を解決するために、本学では「カミサカエリア活性化プロジェクト」を立ち上げました。「カミサカ」エリアとは神田川(カ)、宮田商店会(ミ)、さかえ通り商店会(サカ)の頭文字からネーミングしたもので、大学と2つの商店街を含む周辺地域をエリアとして活性化しようという意図があります。

プロジェクトのメンバーの一人である藤森大祐教授のゼミでは、ランチで活性化するべく調査研究を進めています。ゼミ生は、学生のランチへのニーズを探るべく学内でアンケート調査を行う一方で、実際にお店に訪問して現場の課題をインタビュー調査しています。そして、藤森教授が顧問を務める地域活性化ビジネス塾では、主にウェブを使ってお店の情報を発信したり、地域のストーリーを紹介したり、イベント情報を掲載したりするなど、地域ブランディングについて企画中です。

■身近な所に学びのフィールドがある

藤森教授は学生教育の観点から、「大学周辺に学びの好材料が眠っているのは幸運です。大切なのはビジネス現場でとことん考えること。自分で問題を発見し、自ら解決策を練り上げる能力こそが、これからの時代に必要とされる能力だからです」と語ります。どのような商店街活性化プランが実行されるか、プロジェクトの今後にご期待ください。



イベントプロデュース学科の学生がアーティストプロモーションに挑戦

「理論」と「実践」の両輪で、全ての産業に通じる「イベント力」を身に付ける！

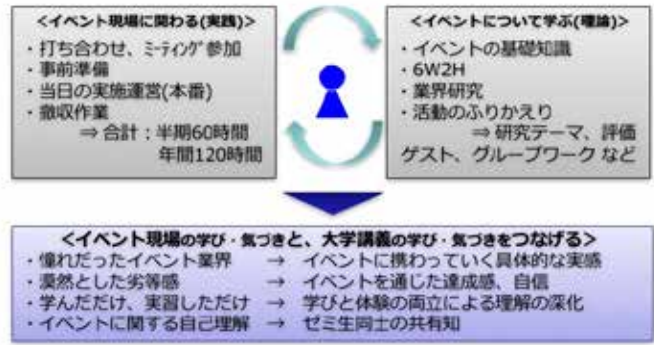
イベントプロデュース学科では、職場や地域社会などの中で多様な人々と共に仕事を行っていくうえで必要な基礎的能力である「社会人基礎力」を育成する実践的学習プログラム「イベントラーニングプログラム」に取り組んでいます。

■イベントラーニングプログラムとは？

本プログラムは、「大学の教室においてイベントの理論を学び、イベント現場で理論を実践する」を繰り返すことで、学習経験を豊かにすると同時に、社会人としての責任を学び、社会との結びつきを強化することを目指しています。

1年次には、経営学の基礎的な知識に加えて、イベントの企画・計画・実施・制作及び運営に関する「理論」を学びます。2年～3年次は、年間120時間にもおよぶイベント現場実習で理論を「実践」します。4年次には多くの実践で得た知見を卒業論文の中で「理論」へとまとめあげます。

観光・サービス業にとどまらず、製造業の販売促進や、地方自治体の地域活性化など全ての業界がイベントを必要としています。そのため、イベントの「理論」と「実践」を修めたイベントプロデュース学科の卒業生は、イベント業界のみならず幅広い産業で受け入れられています。



■産学連携によるアーティストプロモーション

イベント現場実習では、イベントにまつわるノウハウや知識を、第一線で活躍するイベントの専門家から直接学べます。現在、イベント業界最大手「株式会社シズオクト」のご協力をいただき、同社がプロデュースを手がけるシンガーソングライター式紗彩さんのアーティストプロモーションを本学学生が行っています。

学生は普段、消費者（聴く側）の立場でしかアーティストのことを考えていません。プロモーションをするという（売る側の）視点を養うため、年間数千件ものコンサートを手がけるシズオクトからプロモーションノウハウを教わります。消費者の立場では知り得なかった視点や知見を手に入れることで、学生たちの興味や関心は徐々に高まってきます。



プロモーションノウハウを学んだ後は、実際に式紗彩さんにご登場いただき、彼女の生ライブを鑑賞します（上写真）。アーティストプロモーションを意識しながらのライブ鑑賞は学生にとって初めての体験です。学生たちは今までにはない緊張感をもってライブを鑑賞していました。

その後、シズオクトのプロデュース部スタッフとともに彼女のプロモーションについて本気の議論を行います。膝を突き合わせて真剣に話し合う姿は、イベント会社の会議室の光景ながら。学生ならではの視点や、思ってもみないような独創的なアイデアも飛び出します。アーティストプロモーションの専門家の皆様にとっても非常に新鮮だったようで、口々に「なるほど！」「それは面白い！」といった感想が寄せられました。

■今後の展開

今後は、今回出てきたアイデアを元にして具体的なプロモーションツールの開発や、宣伝活動の展開を予定しています。もちろん、それらの活動にもイベントプロデュース学科の学生が携わる予定です。今後の展開にご期待ください。